

## 第5回田辺市森づくり構想策定等委員会 会議録

日 時	令和3年3月23日（火）午後1時30分～午後3時45分
場 所	田辺市役所 大塔行政局4階 会議室5
委 員	3名 ※欠席委員なし
傍 聴	2名
会議事項	1. 開 会 2. 議 事 (1) 田辺市森づくり構想素案について (2) 山村の維持・振興対策について (3) 森林経営管理制度の取組について 3. 次年度の委員会開催予定について 4. 閉 会

### 1. 開 会

### 2. 議 事

#### (1) 田辺市森づくり構想素案について

##### 【質疑応答】

##### (A委員)

1 ページ、基本理念について、「感謝」から始まるが、何に「感謝」しているのか分かりにくい。後ろに「森林の力を未来へつなぐ」とあるので、「森林」を2回使いたくないのは理解できるが、「感謝」の前に何か言葉がほしいと思う。例えば、「恵みへの感謝」とか。

最後の段落に基本理念の思いや考え方が集約されており、内容は良いと思うが、一文が長いので、「小さいけれども大きく」は無くても良いのではないか。一人ひとりの気持ちがとても尊いという意味合いで使っていると思うが、無くても大切さは伝わる。

##### (C委員)

「小さいけれども大きく」は分かりにくい。「小さいけれど、大きくかけがえのない」といった表現の方が分かり良い。

##### (A委員)

かけがえのないものに、小さい、大きいはないと思う。

##### (C委員)

2 ページ、将来像の「ていねいな暮らし」は分かりづらい。具体的にどのようなことを指しているのか。

##### (事務局)

山村の暮らしで見れば、森林に囲まれた中で季節を感じながら、田畑を耕し、雑草木を管理していくことや、スギやヒノキを植栽し長い年月の手入れを経て収穫を行い、また植えるといった林業の循環的な営みなど、そうした森林とかかわる暮らしや、森林環境に配慮した営みを、「ていねいな暮らし」と表現した。

(C委員)

将来像の4段落目の文章が長いし、最後の「山村風景です」の主語がない。「私たちは」を「私たちが目指すものは」とすれば分かりやすくなる。

(B委員)

文章を幾つかに区切った方が良い。

(A委員)

将来像のタイトルについて、「が」が2回続くので、「ていねいな暮らしが」ではなく「ていねいな暮らしの」の方が良いのでは。

(事務局)

整理して再度提案する。

(A委員)

基本方針は、環境・社会・経済の3つを柱として、うまくまとまっている。

構想素案全体を通して、「持続可能」という言葉を直接的に使っていないのは、ある意味で新鮮に感じた。内容は持続可能が伝わるものとなっている。

(B委員)

直接的に「持続可能」を使っても良いのではないか。

(A委員)

4ページ、森林のエリアデザインについて、それぞれの項目は「整備を進めます」、「誘導を図ります」というように、少し具体的なことも交えて方針を書いているが、4番目だけ「守ります」となっている。後述の基本的施策の中にある少し具体的な内容を記述し、「良好な生活空間の創出を図る整備を進めます」というように、統一した表現にした方が良いと感じた。

(A委員)

6ページ、基本方針【環境】の基本的施策アの1番目に、森林の有する公益的機能の例として、「水源の涵養」、「大気の浄化」、「二酸化炭素の貯蔵」を挙げた理由は何か。

(事務局)

基本方針【環境】の基本的施策であるので、関連する公益的機能を列記した。

(A委員)

大抵の計画では「国土保全」が入っている。令和元年度に農林水産省が行った調査では、森に期待する役割として、「国土保全」が1番で、「水源涵養」、「二酸化炭素の貯蔵」が続き、4番目に「大気の浄化」という結果が出ている。健全な森づくりを進める施策になるので、「国土保全」は入れておくべき。

もう一つ、「複層林への誘導」は本当にやっていくのか。

(事務局)

弱度の間伐を繰り返すことで下生えの広葉樹を増やしていく。針広混交林という意味合いでの「複層林」であって、樹間に植栽していくということではない。

(A委員)

環境林の整備で育成複層林はあまり聞いたことがない。どちらかと言えば林業の話なので、ここで書くのであれば、「針広混交林」としてはどうか。

あと7ページ「尾根筋等の広葉樹化」の文章で、「スギやヒノキの良質材を育成するとともに」とあるが、広葉樹化を図るのにスギやヒノキの良質材を育成すると読み違えるおそれがある。

(事務局)

山腹のスギ・ヒノキの良質材を育成するという意味で書いたもの。読み違えのないように修正する。

(A委員)

10 ページ、基本方針【経済】のイ「木材の流通や加工等を支援する」に、製材所の記載はあるが、工務店などは含まれるのか。基本方針【社会】に地域産材の利用促進がある中で、木を加工する、あるいは、利用する、デザインすることに関する施策があれば良いと感じた。

(事務局)

今の内容では含まれていない。検討する

(C委員)

世界文化遺産に関連する文章の中で、頻繁に「林業の景観」とあるが、そのような言葉はあるのか。世界遺産関連の書籍を読んでも、「林業の景観」といった表現は見当たらなかった。

(事務局)

ユネスコの文化的景観の価値証明の中では「人工林の景観」という表現となっているが、森づくり構想においては、単に人工林の景観だけではなく、林業にかかわる方々の営みや暮らしも含めて「林業の景観」と表現している。

(A委員)

2018年に重要文化的景観に鳥取県智頭町の「智頭の林業景観」が選定されるなど、近年は森の営みの風景が社会的に認知されてきている。これからは営みが見える景観というものが価値を持つ可能性があると感じている。

(A委員)

11 ページ「構想推進の財源」に、くまもり基金の記載がないが含まれないのか。

(事務局)

くまもり基金も構想の推進財源の一つ。今回は主な財源として、森林環境譲与税と山村活性化基金のみの説明としているが、この他にもくまもり基金や過疎対策関連の起債もあるので、最終的に整理する。

(B委員)

全体を通して「紀州材」という言葉があまり使われていない。材として優れたものとしてもっと使えば良いと思う。

(事務局)

10 ページ「木材の流通や加工等を支援する」の中で、「良質な紀州材の高付加価値販売」といったフレーズを入れている。

(事務局)

将来像の中でも「当地域の気候が育む良質な紀州材」といった文言を入れている。

(B委員)

括弧書きで強調するなど、意識して使ってもらいたい。

また、過去に豪雨災害を経験した田辺市として、防災に果たす森林の役割があまり感じられなかった。

(事務局)

先に指摘のあった国土保全も含め、防災対策に関連する内容を盛り込む形で整理する。

(A委員)

「災害を防ぐ」ではなく、「災害に強い」といった表現が良い。災害に関しては市民の関心も高

く、基本方針【社会】にあった、集落周りの支障木の除去などは身近に感じられる安心・安全対策として、一つひとつ解決していくことが非常に重要なことと感じた。

## (2) 山村の維持・振興対策について

### 【質疑応答】

(B委員)

耕作放棄地の活用としてソバはよく聞くが、小麦はあまり聞いたことがない。国産小麦は安全で需要もあると思うが、なぜしないのか。

(事務局)

十分な農地が確保できないこと、採算が取れないこと、獣害対策にかなりの手間と費用を取られるといったことが原因と考えられる。

(A委員)

暮らしやすさにつなげるためにも、生活空間を保全することは重要なこと。田辺市には山村活性化基金もあるし、きめ細かな目配りを考えてもらいたい。

## (3) 森林経営管理制度の取組について

### 【質疑応答】

(A委員)

集積計画作成のポイントにある付加価値の向上とは何を指しているのか。

(事務局)

経済的な価値向上と公益的機能の向上の2つを指すもの。

(A委員)

森林所有者に対する意向調査で得られた結果や意見は、今後の林業行政を進めていく上で重要なデータになると感じた。

次年度の目標はどれくらいを想定しているのか。

(事務局)

意向調査及び集積計画の作成について、今年度の2倍近くの面積を目指すことと、集積計画を作成した森林は着実に整備を行っていきたい。また、これまでの経験を生かしながら、制度の実施方針を作成していくことが一つの目標だと考えている。

## 3. 次年度の委員会開催予定について

令和3年度の開催予定時期と内容について説明し、第6回の委員会日程は、後日調整の上、連絡することとした。

## 4. 閉 会